近年の大学生が直面する課題

曖昧な選社基準と検討不足が招く安易な意思決定

ここからは、前述のように学生の就職活動の活動量が減少する中で、学生が直面しがちな課題についてフォーカスを当てていきたい。

前々年、前年の『就職白書2023』『就職白書2024』では、自己探索・環境探索が自分らしい意思決定に寄与していることを述べてきた。「自己探索」とは、自身の長所・短所、志向、生き方などについて、自分自身を客観的に理解するプロセスを指す。一方、「環境探索」とは、未知の仕事や職業の世界を知るために、情報収集や対話を行うことを指す（Stumpf et al., 1983）。こうした自己探索・環境探索が十分だったかどうか、2025年卒の学生に自身の認識を尋ねた設問には、約6〜7割が肯定的な回答をした一方、1割前後が探索活動の不足を認識していた（グラフ❶）。

就職先の決定に関して、選社基準や決定プロセスについての自身の認識を尋ねた設問には、「就職先決定を振り返ると、安易に決めてしまったと感じる」「就職先について、もっと深く考えるべきだったと思う」が共に43.6％、「就職活動中に、もっと多くの選択肢を検討すべきだったと思う」が52.1％など、4割から5割の学生が、選択基準が曖昧なまま、選択肢を十分に検討せずに決定した認識を示した（グラフ❷）。また、グラフ❶の「自分の強みや志向と、将来の仕事のことをつなげて考えることができた」では、「当てはまる・計」は65.1％ではあるものの、「どちらともいえない」（22.6％）、「どちらかというと当てはまらない」（9.2％）、「当てはまらない」（3.1％）と、約35％が肯定的には自認していないことが示された。

これらから、内定が取得しやすい状況を背景に、自己探索・環境探索が不十分なまま、軸や選社基準が定まらない状態で内定を取得する可能性が見て取れる。

探索不足が入社先への納得感の低さにも表れている

こうした現状は、P15で紹介した学生たちの悩みや不安に加えて、彼ら就職活動中の学生と接する関係者の声からもうかがうことができる。

採用エージェント（就職支援を行う人材サービス）のキャリアアドバイザーからは、企業選びの基準や軸が定められないままに複数の内定を取得し、採用難にある内定先企業から早期の意思決定を迫られた結果、十分な検討を尽くせない状態で入社先を決断しなければならず、決定後も悩む姿が語られた（左下コラム）。

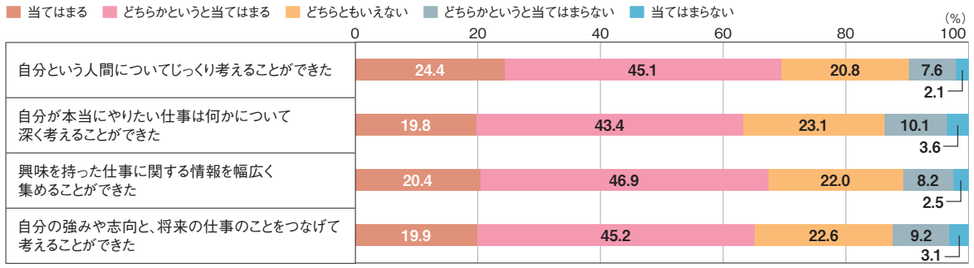
加えて、大学のキャリアセンターの担当者に、学生の相談内容や困りごとの傾向を尋ねた結果では、十分に探索活動を尽くせていない姿や決断できずに就職活動が長期化している現状も示された（右下コラム）。

以上により、採用活動の早期化や内定が出やすい環境の中で、選社基準の曖昧さや軸が定まらないままの意思決定に課題が見受けられる。新卒の就職活動は、人生の中で自身のライフキャリアを考える最初の貴重な機会であるにもかかわらず、安易な決定の下に入社した場合、それは入社後ギャップや早期離職につながる可能性がある。

また、今後テクノロジーの進展に伴い、就職活動の効率化はさらに進むと予想される。実際、すでに就職活動において3割超の学生が生成AIを活用しており、そのうち39.7％が生成AIの回答をそのままエントリーシートなどに利用している。就職活動の負担軽減は歓迎すべき動きだが、一方で学生が自らのライフキャリアについて深く考える機会を奪ってしまうような過剰な効率化には慎重な議論が求められる。逆に新卒の就職活動でライフキャリアについて、思考を深めた経験は、その後の人生においても自身のライフキャリアを自分らしく考える習慣となるだろう。

学生 約6〜7割の学生は自己探索・環境探索ができていると認識

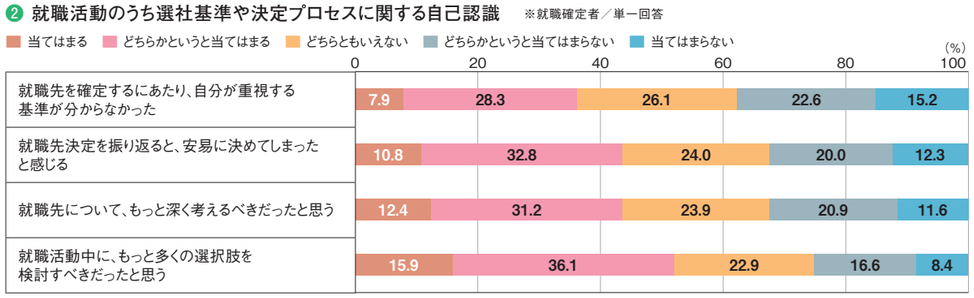
❶ 就職活動のうち自己探索・環境探索に関する自己認識 ※学生全体／単一回答



	当てはまる・計	当てはまらない・計
自分という人間についてじっくり考えることができた	69.5%	9.6%
自分が本当にやりたい仕事は何かについて深く考えることができた	63.2%	13.7%
興味を持った仕事に関する情報を幅広く集めることができた	67.4%	10.7%
自分の強みや志向と、将来の仕事のことをつなげて考えることができた	65.1%	12.3%

学生 4割前後の学生たちが選社基準が磨かれないままに決断していた

❷ 就職活動のうち選社基準や決定プロセスに関する自己認識 ※就職確定者／単一回答



	当てはまる・計	当てはまらない・計
就職先を確定するにあたり、自分が重視する基準が分からなかった	36.1%	37.8%
就職先決定を振り返ると、安易に決めてしまったと感じる	43.6%	32.4%
就職先について、もっと深く考えるべきだったと思う	43.6%	32.5%
就職活動中に、もっと多くの選択肢を検討すべきだったと思う	52.1%	25.0%

探索不足でも内定が得られる今の就活

●キャリアアドバイザーSさん

昨今の学生たちに顕著に見られる傾向として、自分なりの企業選びの基準や軸を明確に定めないままに就職活動を進め、複数の内定を取得した上で比較検討していることが一番に挙げられます。軸を定めるための自己探索、環境探索が十分に行われていない状態でも、比較的容易に複数社から内定が取得できる環境となっているためです。

その背景として、採用難によって企業が採用活動の時期を早めた上、早期に内定を出して学生を確保しようとしていることが考えられます。内定受諾の決断を迫られるために、学生たちは探索活動に十分な時間をかけることができず、検討を尽くせないままに入社先を決めざるを得ないのが実情なのです。そのため、入社先を決断してからも、自らの選択が本当に正しかったのかと悶々とする学生も少なくありません。

探索不足の原因としては、コロナ禍以降、大学生活が制限されたことが発端となって、部活やサークル活動、アルバイトなど興味・関心の材料となる経験が不足していることも考えられます。また、近年の学生の気質の変化により、就活生同士で情報を共有したり、先輩に相談したりするような関係性が築きにくくなっていることも影響しているといえそうです。

学生の相談を受ける大学キャリアセンター担当者の声

●「やりたい事が見つからない」「自分が何に向いているか分からない」と相談してくる学生が多い。

●選考時期が年々早くなっており、内定承諾書の提出も早くなっているため、このままでは内定承諾書提出後の辞退につながるのではないか。また、就職活動の終了を迫る「オワハラ」も増えそうで心配。

●就職活動の不調を訴える声は減り、逆に早期選考に関する相談が増えた。

●納得感を持って就活を終えることも大事だが、こだわりを持つあまり、なかなか進路決定ができずに就活が長期化している学生も一部見受けられる。

●複数の内定の中から、どの企業を選ぶべきか迷っているという相談が増えている。決定に至らず、就活を継続する学生もいる。

●内定先への入社不安が多くなった。企業による内定後のフォローが欠かせないと感じる。